

事後内部評価シート

調査研究課題名	マルチモーダルな静脈物流システムの構築に関する研究
担当者	総括主任研究官 山口勝弘、研究調整官 丸山隆英、研究官 肥高俊明
当初目標と目標達成度	<p>廃棄物の発生状況など廃棄物を取り巻く現状を既存資料によりサーベイした上で、リサイクルに関わる都道府県別・品目別の静脈物流需要を把握・予測（OD 表を作成）するという目標は、概ね達成できた。輸送機関別の OD 表作成や最適な静脈物流システム構築に資する政策誘導策の効果分析については、今後の継続課題とした。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>現実の取扱については不明確な部分の多い廃棄物輸送について、既存資料を最大限に活用しながらリサイクル財に関わる都道府県別・品目別の静脈物流需要について、マクロ的に把握・予測することができた。そして、この分析結果が従来の廃棄物処理の延長線上として静脈産業を捉えるのではなく、我が国の産業競争力の向上に寄与する新たな産業分野として捉えられることに寄与することで、今後進展が予想される循環型社会を支える最適な静脈物流システムの構築を促すバックボーンとなり得るものとして、意義深いものである。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>輸送計画の分析に有用なモデル等について詳しい研究機関に外部委託するとともに、学識経験者によって構成されたワーキンググループを設け、効率的かつ的確な調査研究を進めることができた。</p>
成果と活用（予定）	<p>リサイクル財として広域的な流動をしている廃棄物について、地域的・品目的にマクロ的な分析を加えたことにより、マルチモーダルな静脈物流システムの構築に向けた今後の政策立案にあたって、その基礎的な知見として機能し得るものと言える。今後は今回の手法に限らずにその他の手法に関しても導入の可否につき検討し、モデルを改善する余地がある。</p>
その他	<p>第 13 回政策課題勉強会（2002 年 10 月開催）にて発表。 PRI Review 第 7 号（2003 年冬季）に掲載し、関係者に配布。</p>